

平成27年度 維新小学校 学校評価書 別紙

(A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

学校経営目標 (プロジェクト)	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	評価		
1 確かな学力の育成 ・授業力向上 ・家庭学習の定着	・「進んで表現する児童の育成」という研究主題のもと、校内研究を充実するようにする。 ・英語科以外の教科についても研修する機会を設け、授業の充実を図る。 ・家庭での学習習慣が定着するようにする。	・「授業は分かりやすい。」という回答が85%以上である。(児童・保護者アンケート) ・CRT学力検査(算数)で平均得点率が上がる。(得点率) ・家庭学習の目標時間である(学年×10+10)分以上学習している児童が80%以上である。(児童・保護者アンケート)	保護者アンケートの「子どもは授業が分かりやすいと言っている」という項目では100%肯定的な回答が得られた。しかし、児童アンケートの「授業は分かりやすい」の項目では肯定的な回答が84%であった。 英語科・外国語活動についての研究授業では、指導案検討や授業反省を通して、研究を深めることができている。また、他の教科においても互いに授業を公開することで指導力の向上に努めてきた。 家庭学習については、児童の95%、保護者の84%が肯定的な回答であった。	B	今後も授業研究を進め、児童にとってより分かりやすい授業になるように努めていく。また、アンケート調査や日々の授業の様子から学習に困難を感じている児童を把握し、どの部分に困難を感じているのか分析し、分析した結果を生かして、授業を改善したり個別の支援を生かしたりしていく。 家庭学習については、実態調査の結果を分析し、宿題の出し方や自主勉強のあり方を見直し、より改善していきたい。	・どのプロジェクトもアンケート調査の数値から自己評価をしているが、全体的によく頑張っているのが、あまり厳密に捉えずに評価してもいいと思う。 ・基礎学力の定着はとても重要だと思うので、引き続きドリル学習を取り入れてほしい。 ・英語特区の活動を広めるために、土曜日等に英語に関する行事をしてはどうか。
2 健やかな体づくりの推進 ・業間遊び、業間運動の充実 ・基本的な生活習慣の確立	・健康の保持増進・体力向上を図るために、業間遊びや業間運動を充実させる。 ・児童の基本的な生活習慣の確立に向けて、生活チェック(きらり☆カード)の取組を充実させる。	・「業間には、外でいろいろな遊びをするようにしている。」という回答を80%以上にする。(児童アンケート) ・「早ね・早おき・朝ごはんに気をつけて生活している。」という回答を90%割以上にする。(児童・保護者アンケート)	「業間には外でいろいろな遊びをするようにしている」に対して肯定的な回答をした児童の割合は84%であった。児童が外遊びを楽しんでいる様子がうかがえる。 「早寝・早起き・朝ごはんに気をつけて生活している」に対して肯定的な回答をした児童・保護者はともに90%であった。生活習慣の乱れによる体調不良を訴える児童もおらず、家庭の協力のもと、健康的な生活を送ることができている。	B	業間運動、業間遊びについては、6年生がリーダーとなって全校児童と一緒に楽しく遊びを楽しんでいる様子が見られるが、狭い範囲でのおにごっこやブランコ・シーソーなどの小規模な遊びが多い。体全体を使ったダイナミックな遊びなど、体力作りにつながるような遊びを提案していくようにしたい。 生活習慣については、「子どもが朝なかなか起きない」といった悩みを抱えている保護者もあり、児童が自主的に規則正しい生活をしようとする意識を高めていく工夫が必要である。	・体力をつけることは、けがの防止にもつながる。転びそうになったら自然に手を出すといた身のかなしができるようになることが大切だから、体育の時間などで意識して指導してほしい。
3 心の教育の充実 ・品格教育の継続、推進 ・道徳教育の充実	・品格教育を継続・推進する。 ・「あいさつができる子」「思いやりがあり、友達と仲良くできる子」を育成するための道徳教育を充実させる。	・「相手の目を見てあいさつができる。」という回答が90%以上である。(児童・保護者・教職員アンケート) ・「友達の気持ちを考えて行動している(人を思いやる優しい気持ちが育っている。)」という回答が90%以上、「友達は自分のことを考えて行動してくれている。」という回答が80%以上である。(児童・保護者・教職員アンケート) ・「学校に行くのが楽しい。」という回答が80%以上である。(児童・保護者・教職員アンケート)	アンケート調査では「相手の目を見てあいさつができる」と回答した児童は95%、保護者は89%である。また、「友達の気持ちを考えて行動している」「友達は自分のことを考えて行動してくれている」という回答はともに児童は95%、保護者は90%である。「学校に行くのが楽しい」という回答は、児童・保護者ともに79%である。 以上の結果から、今年度の目標を概ね達成できたと考えます。	B	児童一人一人の個性の理解をより深めるとともに、日々の会話や友達関係に気を配るようにする。 教育相談では、児童の心理状態をつかんで全教職員で共通理解を図り、指導に生かすようにする。 何か課題が見つかったときには、担任を中心に原因を究明し対策を講じていくとともに、多くの教職員で見守る今の体制をより強化していく。	・品格教育の取組の成果が十分に表れている。 ・「あいさつは互いの心を開く」ということだから、そういうあいさつの意義や意味も併せて指導してほしい。 ・上学年が下学年を思いやり、下学年が上学年を慕うような維新ならではのよい人間関係を引き続き育ててほしい。
4 地域を生かした教育の推進 ・地域を生かした生活科、総合的な学習の計画・実践	・地域資源や人材を生かした生活科・総合的な学習の時間の計画、実践を行う。	・「地域の人に教えてもらったり、清梁園などの交流を行ったりすることは大切なことだと思う。」という回答が90%以上にする。(児童アンケート)	様々な農業体験や環境整備、お話ポケットや登校指導等、地域の方から多大な支援を受けることができている。できるだけ直接会って連絡調整を行い、地域の方とのつながりを深めていくように心掛けた。アンケート結果では「地域の人に教えてもらったり交流をしたりすることは大切なことだと思う」に対して児童の90%から肯定的な回答を得ることができた。	A	学校の行事や学習活動を通して個々の児童が地域の方と触れ合うことは、児童の心の中に郷土愛を育んでいく上で大切なことである。今後も地域の方との信頼関係を深めるとともに、感謝の気持ちが根底に流れるような学習活動を工夫していきたい。	・地域との交流はとてもよい取組なので、ぜひ継続してほしい。
5 幼小中一貫教育の推進 ・幼小中で連携した事業推進(英語特区の取組)	・幼小中一貫教育として、維新幼稚園・昭和小学校・昭和中学校と連携し、事業を推進する。	・「中学校区で幼小・小小・小中連携をして良かった」という回答を90%以上にする。(児童・保護者・教職員アンケート)	ピアサポート、乗り入れ授業、合同行事、合同授業、あそぼうデーのいずれも、学園生活部と英語教育部の連携の下、概ね計画通りに実施できている。五つ星学園の組織が有効に機能している。アンケート結果では「中学校区で連携をして良かった」に児童の84%、保護者の95%、教職員の100%が肯定的な回答をしている。	B	幼小中の連携に対してやや否定的な回答をしている児童が少し見られる。今後の活動場面において個々の児童の様子に配慮しながら支援をしたり、活動の事前事後の取組を充実させたりしていく必要がある。	・幼小中一貫教育はよく頑張っていると思うので、学校間のつながりがもてるように引き続き取り組んでほしい。